

200840004A

厚生労働科学研究費補助金

健康安全・危機管理対策総合研究事業

卒前教育・卒後臨床研修における公衆衛生医師の

専門技能評価と育成手法等に関する調査研究

(H18-健危-一般-005)

平成20年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 高野 健人 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)

平成21(2009)年 3月

目 次

I. 総括研究報告書	
卒前教育・卒後臨床研修における公衆衛生医師の専門技能評価と 育成手法等に関する調査研究	----- 1
高野 健人	
(資料) 高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成および公衆衛生医師 人材確保のモデル	
(資料) 国立保健医療科学院による医師臨床研修「地域保健・医療」 プログラムについて	
(資料) 社会医学サマーセミナー参加学生への社会医学教育に関するアンケート	
(資料) 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策 総合研究事業）成果発表会資料	
II. 分担研究報告書	
1. 医師の卒前教育における公衆衛生学教育カリキュラムと 効果的な教育技術の開発（社会医学サマーセミナー）	----- 37
中村 桂子	
(資料) 第 14 回社会医学サマーセミナー報告書	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	----- 151

I. 総括研究報告書

厚生科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
総括研究報告書

卒前教育・卒後臨床研修における公衆衛生医師の専門技能評価と
育成手法等に関する調査研究

研究者代表者 高野 健人（東京医科歯科大学教授）

研究要旨 医学教育の変革、卒後臨床研修の必修化と後期研修制度の具体化による医師の卒後キャリア選択の多様化、地域健康危機管理などにおいて必要とされる公衆衛生医師に求められる専門技能の高度化にあたり、医師の卒前教育、卒後公衆衛生教育における養成機能評価と効果的な手法を調査研究し、実践に必要な能力を備えた公衆衛生医師の養成方策等を明らかにし、公衆衛生医師の確保の方策を提示することを目的として、調査研究を行った。先駆的な教育手法を取り入れた社会医学サマーセミナーの教育効果を検証した結果、参加学生のパブリックヘルスマインド養成に高い効果をもたらすことが明らかとなり、今後も継続して行われることが望まれた。卒後臨床研修における「地域保健・医療」プログラムの項目についてまとめた。公衆衛生医師への志向性の強い研修医に対しては、期間が3か月程度で、国際保健なども含めた総合的な「地域保健・医療」プログラムを提供できる研修体制の整備が望まれた。社会医学分野の人材育成について重要と思われる事項について検討し、大学入学前、大学学部在学中、大学学部卒業後の各ステージについてまとめた。本年度の結果およびこれまでの成果をふまえ、高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成方法と公衆衛生医師人材確保の総合的な方策をまとめた。

〔研究者分担氏名・所属施設及び所属機関における職名〕

相澤 好治・北里大学教授
佐藤 洋・東北大学教授
岸 玲子・北海道大学教授
實成 文彦・香川大学教授
大井田 隆・日本大学教授
川南 勝彦・国立保健医療科学院室長
中村 桂子・東京医科歯科大学准教授

A. 研究目的

地域健康危機管理を担う公衆衛生医師の育

成は、医学卒前教育、卒後臨床研修、医師の生涯教育の中で一貫して取り組むものであり、またその専門技能を的確に評価する手法が必要とされている。医学教育の変革、卒後臨床研修の必修化と後期研修制度の具体化による医師の卒後キャリア選択の多様化、地域健康危機管理などにおいて必要とされる公衆衛生医師に求められる専門技能の高度化をふまえると、公衆衛生医師を育成する多様なチャンネルと、専門技能を系統的評価手法が必要である。本研究は、医師の卒前教育・卒後臨床研修、卒後公衆衛生教育における養成機能評価と効果的な手

法を調査研究し、実践に必要な能力を備えた公衆衛生医師の養成方策等を明らかにし、公衆衛生医師の確保の方策を提示するものである。

B. 研究方法

全国の医育機関における衛生学、公衆衛生学教室等の教授により構成される全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会の会員を研究協力者とし、これまでの経験を踏まえ、内外の現地調査・文献調査、ワークショップ、小グループによるワーキングにより討論を重ね、所期の目的を達成した。

医師の卒前教育における公衆衛生学教育カリキュラムと効果的な教育技術の開発の一環として、パブリックヘルスマインドを育成する教育手法の評価と教育スキルの向上のため、医学生・大学院生を対象とした社会医学サマーセミナーを実施し教育モデルを検討した。

卒後臨床研修における「地域保健・医療」プログラムについて文献および社会医学サマーセミナー参加者を対象としたアンケートにより検討した。

H18-20年度の社会医学サマーセミナー参加者を対象にアンケートを実施し、社会医学分野の人材育成について重要と思われる事項について検討した。

英国王立公衆衛生学会会長との意見交換の機会があり、公衆衛生専門家の育成とその支援環境について意見交換をおこなった。

今年度およびこれまでの成果をふまえ、高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成方法と公衆衛生医師人材確保の総合的な方策をまとめた。

(倫理面への配慮)

個人情報の取り扱いに留意し、調査実施の前には趣旨と情報の取扱いについて十分に説明し、同意を得、調査結果は集計値または匿名情報として公表した。

C, D. 研究結果と考察

社会医学サマーセミナーを、平成20年8月

15日～17日に山梨県富士吉田市において開催した。

全国から37名の学生、大学院生、臨床研修医の参加があり、全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会の教授陣・地域医療担当者および厚生労働省からの特別講師が講義・特別講演を行い、学生のプレゼンテーションおよび討議に参加した。社会医学サマーセミナーは、現在の医学教育において社会医学の重要性や意義について学ぶ時間が減少しているなかで、所属大学に枠をこえ、社会医学系の教員が協力して社会医学に関心のある学生の教育にあたることのできる有効な場であり、参加学生のパブリックヘルスマインド養成に効果をもたらすことが明らかになった。また、本セミナーは、将来の社会医学分野の医師確保に寄与することが期待される活動であることが明らかとなり、今後もこのようなセミナーが継続して実施されることが望まれた。(分担研究報告参照)。

卒後臨床研修における「地域保健・医療」研修については、以下のような項目について研修することが望まれる。地域の現状把握と地区診断/健康危機管理(感染症、食中毒の発生、災害について想定モデルの元に対策の樹立を体験)/健康教育の企画、立案、実施、解析、評価/在宅高齢者の保健・医療・福祉・介護プログラムの作成と評価/へき地保健医療計画/在宅難病患者の管理プログラムの作成/高齢者保健施設、福祉施設等における健康管理プログラム/各職場における保健予防、管理(3管理)プログラム。しかしながら、これらのプログラムをすべて、概ね1か月の「地域保健・医療」研修で網羅するのは困難であり、研修者の興味と研修施設の提供可能なプログラムとをマッチングさせることが、研修の効果を上げるためには必要と考えられた。研修形式については、見学・聴講型の実習ではなく、一人の医師として実際に活動および業務を行う形式での実習が研修者からは望まれており、今後そのような形式でのプログラムの提供を充実させることが重要と考えられた。また、公衆衛生医師

への志向性の強い研修医に対しては、すでに国立保健医療科学院で行われているように、期間が3か月程度で、先の研修項目に国際保健なども含めた「地域保健・医療」プログラムを提供できる研修体制の整備が望まれた(資料参照)。

社会医学サマーセミナー参加者を対象にアンケートを実施し、社会医学分野の人材育成について重要と思われる事項について検討した結果、大学入学前、大学学部在学中、大学学部卒業後の各ステージで以下のような項目が明らかとなった。

大学入学前：医師の進路として社会医学・公衆衛生医という進路があること、またどのような活躍の場があるかを、広く紹介する機会の創出(講演会、進路紹介等)。小中高生を対象とした健康教育プログラムの推進とそれへの社会医学者・公衆衛生医の関与。社会医学を体験できる場や機会の提供(地域参加型の活動やボランティア活動、研究室の公開、等)

大学医学部在学中：社会医学・公衆衛生医の存在を早期より認識できる教育プログラム。社会医学の現場を体験できる機会の創出(特別講義・実習・課外活動等)。社会医学の専門家のキャリアパス情報の提供。他職種との交流が図れる機会の提供。社会医学・公衆衛生医に興味を持つ学生への適切な教育プログラムの提供(交流会、研修会、選択学習など)。

大学医学部卒業後：社会医学の専門家のキャリアパス情報の提供。社会医学・公衆衛生活動を实践されている様々な職場(大学、厚労省、保健所、地域医療の現場等)の医師との交流の機会の創出。社会医学・公衆衛生医の専門家に必要な内容を明示し、それを習得できる教育プログラムの提供。社会医学系の大学院教育の充実(含む社会人大学院)。社会医学・公衆衛生に関する情報を継続的に提供する場の創出。

英国王立公衆衛生学会会長と公衆衛生専門家の育成とその支援環境について意見交換をおこない、以下の課題があきらかとなった。各国の状況に応じて、公衆衛生専門家の育成プログラム、コンピテンシー、認定制度等の整備が

望まれること。また一方で、今後、WHO(世界保健機関)や各国の医学教育関係者等が連携することにより、公衆衛生専門家の人材育成機能において、国際的に共通な評価方法の構築の必要性が示唆された。

今年度およびこれまでの成果をふまえ、高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成方法と公衆衛生医師人材確保の総合的な方策を以下のE. 結論のようにまとめた。

E. 結論

公衆衛生医師の養成にあつては、広い領域にわたる公衆衛生の個別課題の知識と技術の修得だけでなく、政策立案能力や危機管理能力を身につけることがきわめて重要である。本研究において得られた結果をまとめ、現時点での高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成方法と公衆衛生医師人材確保の総合的な方策をまとめた。

まず、大学医学部入学を目指す学生を含め、広く世の中に社会医学や公衆衛生医の活躍の実情と重要性を発信し、医師の進路として社会医学や公衆衛生医という進路があることをより多くの人に知ってもらう必要があると考えられた。

大学医学部における教育では、医学教育モデル・コア・カリキュラムと医師国家試験項目をふまえつつ、より多くの学生に社会医学への興味を持ってもらえるよう、講義・実習プログラムを提供することが望まれた。具体的には、社会医学・公衆衛生の第一線で活躍する講師による特別講義や実習により、現場をより体感できる機会を創出するとともに、PBLやケースメソッドを取り入れたグループワークを適切に実施することで、社会医学に関する問題意識を高めることができると考えられた。また、社会医学・公衆衛生に興味のある学生に対しては、本研究で行った「社会医学サマーセミナー」や他の勉強会・研修会といった、アドバンスな教育プログラムを提供することで、将来公衆衛生医師として進路を選択する可能性を高められ

ると考えられた。

本研究における「社会医学サマーセミナー」で取り入れた、社会医学へ何らかの興味のある参加者のリクルート、社会医学の第一線で活躍する講師による講義とグループワークの併用、PBLやケースメソッドを取り入れたグループワークの実施、講師と参加者によるフリーディスカッションの時間の設定による教育手法は、参加者のパブリックヘルスマインド養成に高い効果をもたらすことが明らかになり、公衆衛生医師人材確保のためには本セミナーを継続して実施する必要性が示された。

医師卒後臨床研修においては、「地域保健・医療」研修において、医師として実際に活動および業務を行う実践形式での実習を充実させ、パブリックヘルスマインドを養成する機会が増えるようにするとともに、社会医学・公衆衛生医への志向性の強い研修医に対しては、より重点的に「地域保健・医療」プログラムを研修できる体制の整備が必要である。

卒後教育においては、公衆衛生医師の専門能力を高めるため、社会医学系の大学院において、人材養成に関する目的をより明確にすること、コースワークのカリキュラムと内容を充実させる必要性が示された。また、現場で既に活躍している公衆衛生医師に対して、分析評価能力、マネジメント・管理能力、コミュニケーション能力、パートナーシップの構築能力、教育・指導能力、研究の推進と成果の還元、職業倫理などのスキルアップを図れるよう、定期的・継続的な教育プログラムの提供と、コンピテンシーを用いた評価手法の必要性が示された。そのためには、e-learning等のIT技術を効果的活用していく必要性、地域における人材やプログラムの連携をはかる必要性が明らかとなった。また、公衆衛生医のキャリアパスが多様であることから、公衆衛生医師の人材確保には、卒業後の医師に対して定期的に公衆衛生医師と交流を持てる場を提供していくことも重要である（資料：高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成および公衆衛生医師人材確保のモデル模

式図参照）。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文・書籍発表

第14回社会医学サマーセミナー報告書 全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会 2008:pp.105

2. 学会発表

本研究の経過および成果を全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会総会（福岡：平成20年11月）で発表した。

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

(資 料)

高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成
および公衆衛生医師人材確保のモデル

高度な能力を備えた公衆衛生医師の養成 および公衆衛生医師人材確保のモデル

高度な能力を備えた公衆衛生医

- ・コンピテンシーを用いた評価手法の活用
- ・社会医学教育・研究と行政との交流
- ・臨床医への継続的な情報提供、公衆衛生医との交流
- ・継続的な研修・勉強会：地域資源の活用・連携
- ・大学院教育：コースワークの充実等

研修医後

研修医

実践的な「地域保
健・医療」プログラ
ムの提供

重点的な「地域保
健・医療」プログラ
ムの提供

医学部

PBLやケースメソッドを取り入れた
効果的な社会医学教育

セミナー
勉強会

大学前

社会医学や公衆衛生医の活躍の実情と重要性を発信

社会医学セミナー

国立保健医療科学院による医師臨床研修「地域保健・医療」
プログラムについて

国立保健医療科学院による医師臨床研修「地域保健・医療」プログラムについて

国立保健医療科学院

国立保健医療科学院では、下記の通り、医師臨床研修制度の必修科目である「地域保健・医療」の研修プログラムを作成し、研修医を受け入れる体制を整えることといたしました。

本プログラムは、2年目の研修医を対象とし、幅広い公衆衛生の知識と技術を身につけ、将来、臨床の現場でも活かしてもらうことを目的としており、期間は毎年10～12月の3か月間です。研修は国立保健医療科学院のみならず、保健所、国立の研究機関、WHO 関連機関、厚生労働省等のご協力をいただいで実施します。本プログラムにより地域保健・医療に関する幅広い知識・技術が修得できることが期待されます。

また、本研修を修了した者については、翌年度以降、国立保健医療科学院の専門課程「保健福祉行政管理分野」（いわゆる保健所長コース）に入学した場合、遡って一定の単位を認定することとします。入学より3年以内に、遠隔教育を含む研修で全35単位を履修した者に、MPH (Master of Public Health) を授与します。これは、保健所長（医師）の資格要件を満たすものです。

なお、本研修に研修医を参加させるためには、国立保健医療科学院が研修病院の臨床研修協力施設となる手続き等が必要となります。

本研修は、「地域保健・医療」研修の一つのモデルプログラムを開発することを目的としたものであり、本研修を参考にして、将来的には、各都道府県単位で、地元医学部の公衆衛生関連講座が中心となって、保健所、地方衛生研究所、がんセンターや海外の姉妹都市などのリソースを活用した独自の研修プログラムを開発・実施することを期待しています。

記

1. 期間 10～12月（3か月間）
2. 対象 2年目の研修医
3. 内容（例）
 - (1) 国立保健医療科学院における研修
 - 1) 公衆衛生行政に関する基礎講義
 - 2) 健康危機管理研修等の短期研修
 - (2) 関連施設との協力による研修
 - 1) 近隣の保健所における実習
 - 2) 国立感染症研究所、国立がんセンター等における実習
 - 3) 厚生労働省における見学実習
 - 4) WHO 関連海外研修：感染症対策（マニラ）、生活習慣病対策（ジュネーブ、ヘルシンキ）
4. 上記の研修を修了した者については、翌年度以降、国立保健医療科学院の専門課程「保健福祉行政管理分野」（いわゆる保健所長コース）に入学した場合、遡って一定の単位を認定する。入学より3年以内に、遠隔教育を含む研修で全35単位を履修した者に、MPH (Master of Public Health) を授与する。

**国立保健医療科学院(研修協力施設)
医師臨床研修「地域保健・医療」研修プログラムについて**

1. 期間 平成20年度 10～12月(3か月間)予定
2. 受入人員 2年目の研修医(全国から15名程度, 東京医科歯科大学から1～2名)
3. 内容
 - (1) 公衆衛生行政と地域保健活動に関する総合研修
 - 1) 保健所総合研修
 - 2) 公衆衛生行政基礎講義・演習
 - 3) 健康危機管理短期研修, 死体検案短期研修
 - 4) 厚生労働省研修
 - (2) 生活習慣病対策に関する研修
 - 1) フィンランド, WHO本部(スイス) 海外研修
 - 2) 生活習慣病対策講義
 - (3) 感染症対策に関する研修
 - 1) WHO西太平洋地域事務局, フィリピン大学 感染症対策研修
 - 2) 国立感染症研究所研修
4. 本研修を修了した者については、翌年度以降、国立保健医療科学院の専門課程 I「保健福祉行政管理分野」(いわゆる保健所長コース)に入学した場合、遡って一定の単位を認定する。入学より3年以内に、遠隔教育を含む研修で全35単位を履修した者に、MPH(Master of Public Health)を授与する。

平成19年度のプログラム例

	10月	11月	12月
1W	オリエンテーション・基礎講義	厚生労働省(個別実習)	埼玉県保健所実習
	健康危機管理保健所長研修(基礎)	感染症対策研修 フィリピン大学公衆衛生学部(マニラ)	国立感染症研究所実習
2W	死体検案研修	WHO西太平洋地域事務局(マニラ)	
3W	生活習慣病対策研修 フィンランド国立公衆衛生研究所(ヘルシンキ)	レポート作成	レポート作成 東京都監察医務院/ 横浜検疫所/埼玉県 食肉衛生検査センター
	WHO(ジュネーブ)		
4W	厚生労働省(個別実習)	APACPH 総会	レポート発表・評価 会・閉講式
		科学院院内研修	
5W			

留意事項

1. 研修期間は10-12月ですが、各研修内容の日時については変更の可能性があります。特に厚生労働省での研修は、一度に受入可能な人数に限りがありますので、研修医によって日程が異なります。また、各受入機関とも研修態度不良の者は受け入れないもしくは途中で打ち切る可能性もあります。
2. 科学院には寄宿舎も併設されておりますので、研修期間中は必要に応じて部屋を提供いたします。1泊2700円ですが、宿泊期間に応じて若干安くなります。詳しくは、http://www.niph.go.jp/entrance/h18/hous_summary.htmlをご覧ください。
3. 海外研修中の傷害保険関係については、研修医本人でご対応をお願い致します。
4. 海外研修については、臨床研修における前例がないため、名目上「休止」の扱いになります。3か月に渡る本「地域保健・医療」研修の修了および臨床研修全体の修了(90日以内の休止を認めている)には影響ありません。
5. 海外研修につきましては、すべて自費でお願い致します(WHO・フィンランド研修:約35万円、フィリピン研修:約15万円)。そのため強制とはしませんが、貴重な機会ですので、参加をお勧め致します。

国立保健医療科学院の研修プログラムの特徴

- さまざまな地域の地域保健、医療政策や国際保健の最前線の状況を見聞きしながら研修を受けることができる、密度の濃い貴重なプログラムです。
- 研修指導は、厚生労働省の医系技官(医師)のほか、都道府県の保健衛生部局、国立感染症研究所、国立がんセンターなど、地域保健・医療の政策決定、健康危機管理の第一線で奮闘している医師が行います。
- 一部のプログラムは現職の保健所長、健康危機管理官、WHOのプログラムに参加する各国の保健省の若手医師と合同で行います。
- 全国でひとつしかない厳選されたプログラムです。
- 医師の臨床研修のプログラムとして特別に企画され、平成18年度から始まりました。
- 東京医科歯科大学と国立保健医療科学院との連携により、本学の他、限られた施設の研修医のみに参加の機会が与えられています。
- プログラムの期間は3ヶ月の予定です。(必修の「地域保健・医療」研修1ヶ月と選択研修2ヶ月)
- プログラムの内容について問い合わせ先: 東京医科歯科大学大学院 国際保健医療協力学分野 中村桂子 (nakamura.ith@tmd.ac.jp)

社会医学サマーセミナー参加学生への
社会医学教育に関するアンケート

社会医学サマーセミナー参加学生への社会医学教育に関するアンケート 2009年1月

回答は、各問の四角内に選択肢番号、文章等をご記入ください。

氏名：

現在の所属と身分（学生のかたは、大学名・学部・学年）：

これまでに参加した社会医学サマーセミナー：

1. 第12回：2006年（秋田） 2. 第13回：2007年（奈良）
3. 第14回：2008年（山梨） 4. その他（参加した回または年を記入してください）

問1-1. あなたは、現在も社会医学に興味・関心がありますか？

1. ある（問1-2へ進む） 2. ない（問1-4へ進む）

問1-2. 興味・関心のある分野はどのような分野ですか？（複数回答可）

1. 疫学 2. 健康教育 3. ヘルスプロモーション 4. 衛生行政
5. 健康危機管理 6. 地域保健・地域医療 7. 難病・障害・医療福祉
8. 成人保健 9. 母子（親子）保健 10. 学校保健 11. 高齢者保健福祉・介護
12. 精神保健福祉 13. 口腔保健 14. 感染症 15. 公衆栄養
16. 食品衛生・薬事衛生 17. 産業保健 18. 環境保健・生活環境衛生
19. 国際保健 20. その他（具体的に記入してください）

問1-3. その中で最も興味・関心のある分野はどの分野ですか？

問1-4. 社会医学サマーセミナーへの参加は、あなたの社会医学への興味・関心をさらに大きくすることに役立ちましたか？

1. 大いに役立った 2. 役立った 3. まあ役立った 4. あまり役立たなかった

問1-5. 将来の進路として、社会医学の分野を考えていますか？

1. 既に社会医学分野への進路を選択している 2. 考えている
3. あまり考えていない 4. 考えていない

問2-1. 大学（学部）での講義で、社会医学への興味・関心を抱かせる講義やチュートリアルはありましたか？

1. あった（問2-2へ進む） 2. いまのところはない（問2-3へ進む）
3. なかった（問2-3へ進む）

問2-2. それは、どのような講義・チュートリアルでしたか？（講義の科目名や、内容の概略を記入してください）

問2-3. 大学(学部)での実習で、社会医学への興味・関心を抱かせる実習はありましたか？

1. あった (問2-4へ進む) 2. いまのところはない (問2-5へ進む)
3. なかった (問2-5へ進む)

問2-4. それはどのような実習でしたか？(実習の科目名や、内容の概略を記入してください)

問2-5. 大学(学部)での講義・チュートリアル・実習で、社会医学への興味・関心を高めるために、あったら良いと思う(あるいは、これから受けてみたい)講義・チュートリアル・実習がありましたら、概略を自由に記入してください。

問 3 - 1. あなたは卒後の医師臨床研修で、「地域保健・医療」の研修を受けましたか？

1. 受けた、または現在受けている (問 3 - 2 へ進む)
2. 受けていない (卒業前も含む) (問 3 - 5 へ進む)

問 3 - 2. 医師臨床研修の「地域保健・医療」研修において、社会医学への興味・関心を高めることに役立った研修はありましたか？

1. あった (問 3 - 3 へ進む)
2. いまのところはない (問 3 - 4 へ進む)
3. なかった (問 3 - 4 へ進む)

問 3 - 3. それは、どのような研修でしたか？ (研修先の施設名や、指導者、研修内容の概略等を記入してください)

問3-4. 医師臨床研修の「地域保健・医療」研修について、良かった点、改善点等、自由に感想を記入してください（差支えなければ、研修先の施設名と研修内容の概略も簡単にご記入いただくと幸いです）。

問3-5. 医師臨床研修の「地域保健・医療」研修において、あったら良いと思う（あるいは、将来受けてみたい）研修がありましたら、概略を自由に記入してください。